

筑波大学名誉教授の会会報

第10号

2005年3月発行

〈題字：中村伸夫〉



写真：第6回世界湖沼会議（平成7年10月23日）にご臨席された皇太子同妃両殿下，及び本学創設以来の歴代学長と名誉教授のご寄贈本（於：名誉教授室）

目次

法人化後の筑波大学の経営戦略	学長 岩崎 洋一	2
ご挨拶	名誉教授の会会長 原 康夫	3
特別寄稿1. 健康維持に早足を	藤田 紀盛	4
特別寄稿2. 高血圧について	長谷川鎮雄	5
筑波大学病院の受診について	長谷川鎮雄	6
新入会員の紹介		6
編集後記	佐藤 泰正・島岡 丘	10

法人化後の筑波大学の経営戦略

学長 岩崎洋一

・法人化とは

国立大学法人の仕組みに関して、役員会など法令で定められた会議体の役割などを含む流れ図は様々なところですでに紹介されているので、ここでは、異なる観点から仕組みを模式的に図1に表した。以下この図を用いて説明したい。

国立大学法人の使命は、いうまでもなく、図の上の部分に示されているように、教育・研究・社会貢献であり、この点は国立大学時代と本質的に変わらないが、その内容、質が厳しく問われている。これらの大学の使命を実現するためには、財政的な基盤とそれを用いた経営戦略がなければならない。

経営基盤として、図の下段に示した、施設、経費（人件費を含む）の大学外部からの財政的な基盤を上げることが出来る。また、法人は国立大学法人化、労働基準法、労働安全衛生法、などの法体系の中に存在する。さらに、様々な第三者による評価を受け、それにより、財政的基盤が影響を受ける。

法人として、このような財政的な基盤の上に、いかに大学の本来の使命である教育・研究・社会貢献の実を上げていくかが問われている。これが法人の経営戦略である。法人は、簡単化していうと、組織・規則・会議体など法人の基盤を構成するものと、財務システム・人事システム・評価システム・情報システムなどを用いて行う経営システムから成る。これらの組織、経営システムなどを用いて、企画立案し実行していくことが、法人の経営戦略である。

以下では、図に基づき、法人の基盤と経営戦略に焦点を合わせ説明したい。

・法人の基盤と経営戦略

まず、法人の基盤として、組織、規則、会議体の整備が挙げられる。その上で、財務システム、人事システム、評価システムなどを構築し、経営戦略を練る必要がある。

まず、法人の基盤整備に関して以下の5点を挙げたい。

- ①法人としての企画立案をする組織として、9つの室を設けた。大学の将来の方向を定める企画立案をする部署があるので、若い教員を中心にして室員を構成した。「学長室」、「教育関連4室」、「研究戦略室」、「国際連携室」、「広報戦略室」、「実験環境管理室」の9室である。

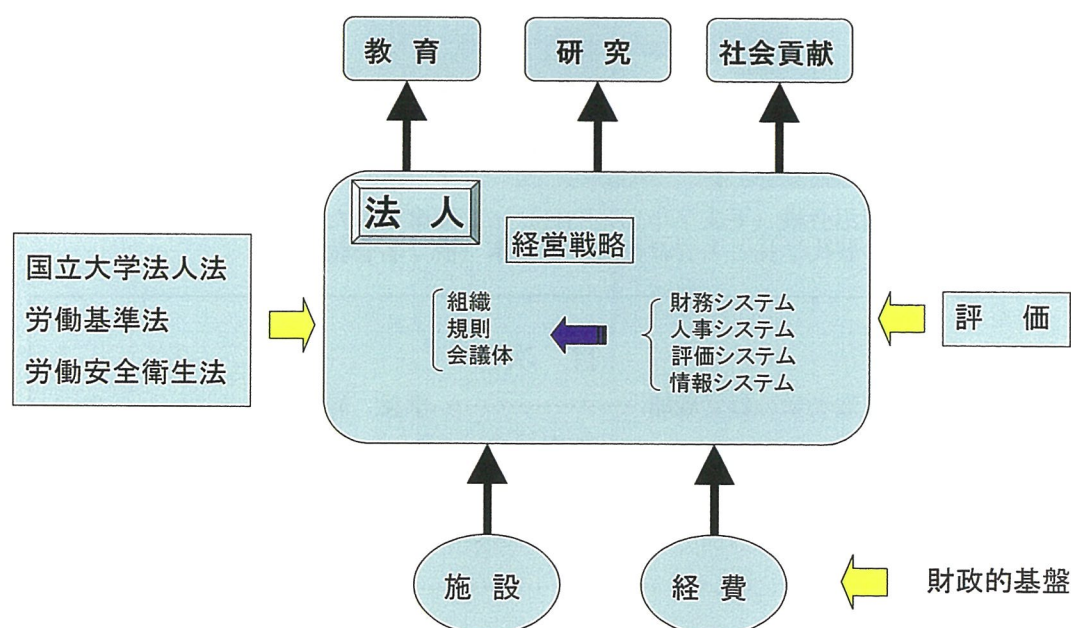


図1.

- ②従来、教員と事務局と二系列になっていた組織を、担当副学長の下に各部長を配置し一元化した。これにより、教員と事務・技術職員による一体的な運営を図る。
- ③法人化に対応して必要な規則類はほぼ完備した。
- ④法令で規定されている、役員会、教育研究評議会、運営協議会とともに、運営会議、本部・部局連絡会などの会議体を設置し、法人の運営に当たってきた。今年度の経験を生かし、さらに効率的で透明性のある大学運営を目指したい。
- ⑤労働安全衛生法などの法令に則り、学生が、安心して学べ、生活できる環境の確保に努めるとともに、安全で快適な教育・研究環境や職場環境の確保に努める。
- 経営戦略として、主要な4つの施策について簡単に述べたい。
- ①法人としての経営・財政状況が的確に把握でき、その改善を促進し得るよう、財務システムの充実を図る。それに基づいて、コスト意識の徹底や費用の適切な支出、資源の有効活用など、経営の効率化を進める。さらに、外部資金や競争的資金の積極的拡大、産学官連携や知的財産活用などにより、教育・研究に活用できる資金の拡大を図り、将来に向けて経営・財政基盤の強化を進める。
- ②教員、事務職員、技術職員などあらゆる職種ごとに、個々人の能力を最大限に発揮できるインセンティブ制度を検討し、頑張った人が報われる人事システムを構築する。極言すれば、どのような組織にとっても、「人」が全てである。教職員にとって働き甲斐のある魅力ある組織にしていくことが肝要である。
- ③評価と資源配分の適正化を図る。教育・研究に頑張っている個人や組織をポジティブに評価することにより、さらに大きな成果が挙げられるように、資金・人員・スペースなどの資源を適性に配分し、優れた教育・研究拠点の創出を促進する。
- ④大学運営の効率化・迅速化を進めるとともに、それを支える情報システムの整備を行う。また、個人や組織の評価を初め、大学の活動を支える様々なデータベースの構築を計画的に進める。

以上、法人の基盤と経営戦略主要4施策を挙げたが、運営上難しい点は、「室」において企画立案された案を現実的な案に纏め上げ、実行することである。その点も考慮に入れて、平成16年度の12の全学重点項目と附属病院と附属教育局の重点項目、合計12+2の重点項目を9月の教育研究評議会で示し、11月の教育研究評議会で、其々の重点項目の検討体制、検討項目、スケジュールを公表した。これにより、法人としての企画立案と実行のサイクルが回り始めたと考えている。

ご 挨拶

会長 原 康夫

昨春秋に開催された総会の決定で、会長をあと2年続けることになりました。これまでと同様に、役員の方々の力をお借りして職責を果たしたいと念願しています。

最近、筑波大学における名誉教授の位置づけという問題を考える必要がありました。そのきっかけは、昨年の総会後の懇親会で、ある会員から、「名誉教授は筑波大学図書館の利用を認められているが、オン-ライン-ジャーナルも利用できるよう大学に要望してほしい」という希望が出たことです。小西甚一元会長が大著「日本文芸史」を執筆されたときに名誉教授として図書館を活用されたことを思い出し、理系学術雑誌の電子化が進んでいる状況に鑑み、「名誉教授でオン-ライン-ジャーナルの利用を希望し、大学が妥当だと判断する者には、出版社との契約が許す場合には、利用の可能性はあるのでしょうか」と問い合わせました。これに対して、この問題は検討中であるが、実現の前に解決すべき問題の一つとして、「名誉教授の筑波大学における位置づけを明確にする必要がある」との反応がありました。筑波大学図書館の利用は地域の住民にも開かれています。電子図書館の学外からの利用に際しては利用者を制限せざるを得ません。この点に関しては、名誉教授の氏名が「筑波大学職員録」に掲載され

ていることは一つの位置づけであると考えてほしいという私見を伝えました。

筑波大学が国立大学法人化した機会に、名誉教授がその学職と経験と余暇を生かして、筑波大学に貢献するという関わり方も考えてみてはどうかと思います。国内外の例を調べてみようと思います。ご意見があればお聞かせください。yshara@r05.itscom.net

健康維持に早足を

体育科学系 藤田紀盛

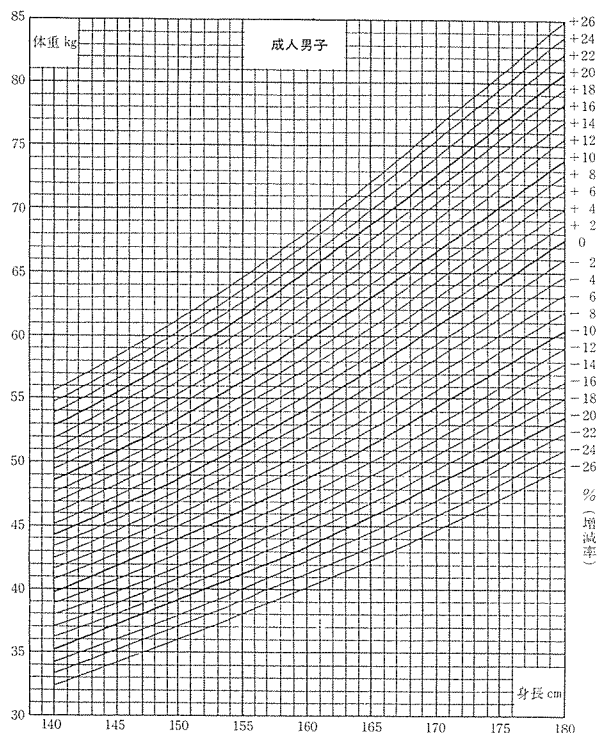
健康は個人で責任をもって管理しなくてはならない。肥満を具体的に知り、それに対して運動を実行することである。

体格指数・肥満指数を算出し、体重 (kg) / 身長 (m²) または、図 1、2 より肥満状態に応じて、運動を実行すべきである。

運動は歩行、(早足) 1 ~ 2 km であって、40分~100分位であり、心拍数120/分をこえない程度が良い。

呼吸は呼気を強く長くし、吸気はゆっくり腹部の拡張、収縮させる。

走路は、平坦部と坂道(階段)を3:1に組合せるとよい、疲労の強いときは、仰臥位となり両足をあげて軽く屈伸をゆっくり5分位おこなふとよい、呼吸はゆっくりおこなふ。歩行距離はだんだんと長くする。早足で健康づくりを。



★図のみかた

標準体重は、身長と増減率を示す0斜線で示され、±10%以内が正常範囲。たとえば、男で身長165 cm、体重70 kgの人では、身長のタテ線165と体重のヨコ線70の交点を増減率の斜線にそって右上方にたどると+22%を示す。なおこの人の標準体重は、身長165の線と増減率0の交点を左横にたどると57.3 kgとなる。

すなわち、標準体重に比し+22%で、70 kg-57.3 kg=12.7 kg ふとりすぎと判定される。

図1. 体重増減率算出図(箕輪)

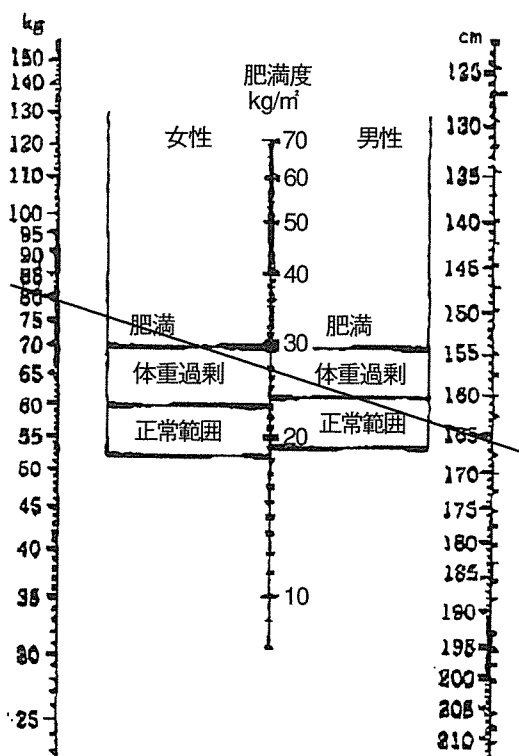


図2. Body Mass Index の算出図

高血圧について

臨床医学系 長谷川鎮雄

1. 血圧の大切さ

人間の体は、脳をはじめ多数の臓器から成り立っています。それらの臓器の細胞は、生存のために栄養を取り入れ、老廃物を排出しなければならず、そのために、心臓のポンプ作用によって送られて来る血液が必要です。人間は、通常二本足で起立歩行する生活を営みますので、心臓のポンプ圧は、起立時に一番高い所にある脳への血流が保たれるように調節される必要があります。いわゆる脳貧血という現象は、心臓のポンプ圧が低下したりして、脳への血流が減少し、めまいや気の遠くなるような不快感などが出現することです。

また、たとえば腎臓は血液を受け入れて、人体に不要な代謝産物を尿として対外へ排出しますが、この腎臓を流れる血液は、心臓のポンプ圧によって血液の濾過作用を営みます。このため腎臓が悪くなると血圧が上昇する現象は防御的な意味もあるのです（腎性高血圧症）。このように心臓のポンプ圧を示す動脈の血液の圧力（血圧）は、適正に維持されなければ各臓に必要な血液が保たれず、人間の生命活動を損うことになります。

2. 血圧の測定値とその考え方

動脈の血圧を測定すると、心臓が収縮して動脈血を送り出すさいの高い血圧値（収縮期圧）と、心臓が拡張して血液を受け入れるさいの低い血圧値（拡張期圧）とが得られます。この上の血圧値と下の血圧値との差の数値を脈圧と呼びます。この脈圧値が減少すること、つまり上の血圧値と下の血圧値との差が少ないことは、心臓のポンプ作用による一回の収縮によって送り出される血液量が少ないことを意味します。このため、全身の調節機序が働いて、心臓の収縮回数（脈拍）を増加させて、全身の臓器への送血量を維持しようとする訳です。このような人体の働きは、非常に大切です。たとえば、心臓について考えてみると分かりやすいのですが、脈圧が減少すると、心臓という臓器自身の機能維持に必要な動脈血液（冠状動脈血）が減少することになります。しかし脈圧の減少時には、全身の血流保持のため脈拍が増加しますので、心臓はその収縮数を増加させ、そのため心臓の筋肉はその多量の動脈血を必要とすることとなり、心臓の筋肉は大変不利な状況に立たされます。これらのことは、とくに高齢になって、全身の動脈硬化が進んでいる時に注意しなければなりません。高血圧に気づき、血圧を急激に正常迄下げようとすると、上の血圧値の降下が著しく、そのため脈圧が減少し、狭心症のような状態が出現する可能性もあるのです。最近、医学的常識が高まり、たとえば血圧の正常値は130/85位であり、140/90程度になれば治療が必要だということも多くの人を知りようになりました。とくに治療が必要となる前の段階で生活習慣の改善をはかることが大切であることが広く言われています。これは日本人の高血圧の90%以上は、本態性高血圧であるとされ、代表的生活習慣病と考えられていることによります。このようなことは大変良いことではありますが、ある程度の年齢に達した人では、単純に正常血圧値を目標にして、血圧降下をはかろうとすることには慎重でなければなりません。それはもしもその人の血圧値が高血圧症の範囲にあったとしても、その人の全身の臓器機能の維持にその血圧が必要であるという要素もあるからです。人間は一人一人すべて個別的で異なる存在ですから、たとえば高血圧が発見されても、自分自身のこれ迄の健康状態、現在の全身の状態等を踏まえて、身体機能の調節を狂わせないように、慎重に対処することが大切です。

3. 生活習慣と老化現象

生活習慣病としての高血圧対策として、具体的に、食事の塩分制限とか、体重（kg）を身長（m）の二乗で除した値であるボディマス・インデックス（BMI）が25以上であれば肥満であり、カロリー制限や運動療法を行なうことなどが言われます。しかし、このような生活習慣の改善も、薬剤治療と同じで、各人一人一人すべて異なることに注意しなければなりません。また最近、生活習慣の改善を、各人の自己責任のように言う人もいますが、この考え方も慎重でなければならないと思います。人間は必ず老化する存在であり、この老化の過程と生活習慣の関係は、まったく未開明と言ってもよい状態です。老化による様々な現象は、自己責任のかかわる生活習慣を超えた次元のものであるという認識は大切です。

一人の人間の身体は、時々刻々、繊細に自動調節され生命活動を営んでいるので、一つの疾病の治療を考えるにあたって、いつも全体を見ながら、慎重にこれを行なうことが、すべての人にとって大切なことだと思います。

筑波大学病院の受診について

臨床医学系 長谷川鎮雄

会報のご依頼を受けました時、病院等医療機関の受診についての情報の御希望をいただきました。今回は、筑波大学病院と筑波メディカルセンター病院の外来受診について、ごく簡単に御紹介します。

1. 筑波大学病院

- 外来は他の医療機関よりの紹介を得て、診療予約をして下さい。予約は病院外来受付2番窓口にて直接行なうか、あるいは予約センターでの電話予約（電話029-853-3570）によります。いずれも午前8時30分より午後16時迄受付けます。
- 外来受診時に、どうして良いか分からないことがあれば、外来診療時間内には、看護師・事務職員・ボランティアの人達が、外来受付付近に複数おり、相談・案内に応じています。
- また、自分の病気について、どの専門診療科を受診してよいか分からない時には、総合診療科という科を受診すると、その後受診すべき専門診療科へ振り分けてくれます。
- 医療福祉支援センター（電話029-853-3906）（月～金、9時～16時）では、入退院、転院、治療費、福祉制度利用法などについての相談ができます。
- 筑波大学病院についての、さらなる御質問には大学病院医事課長席に直接お電話を下さっても結構です。（電話029-853-3550）

2. 筑波メディカルセンター病院

- メディカルセンター病院は救急業務が大きな役割となっていますが、一般入院、外来・地域がんセンターとしての癌医療、健康診断などに充実した機能をもっています。
 - 外来外診については、筑波メディカルセンター病院（電話029-851-3511、交換）で総合案内に相談されると案内が得られます。
 - 患者さん相談窓口（交換）では、外来受診時から入院時迄、広く患者さんの御相談に応じています。セカンドオピニオンなども受けています。
 - 外来では、受付付近に外来相談ナースがおり、患者さんの分からないことの相談に応じています。
3. つくば市内だけでも筑波大学関係者が関与している医療機関が非常に多数あります。次の機会には、これらの医療機関の利用についてお伝えしたいと思います。

新入会員から

現代語・現代文化学系 阿部軍治

長年ロシア文学と比較文学の研究に従事していたが、近年シベリア抑留の研究もするようになり、時間がいくらあっても足りなかったが、定年後も基本的にはそれらの研究を継続している。特に日本におけるトルストイアン運動の研究と日本トルストイ協会の運営に力を注ぎ、協会誌の発行等に当たっている。また、『シベリア抑留史』の執筆に参加、それとは別に単独に『シベリア抑留の実態』をまとめ、刊行の準備を進めている。

現代語・現代文化学系 中田光雄

古代ギリシャ哲学は存在論、中世西欧哲学はその神学化、近代西欧哲学は認識論と形而上学、とすれば、20世紀哲学は近代認識論によって単なる認識対象へと貶められた世界の「存在の尊厳」の回復の努力でした。私はこの現代哲学の存在論的転回を踏まえて、新たな実践論的転回のための研究を行なってきました。主要論考は『ベルクソン哲学－実在と価値－』（544p）『文化と文明－意味と構造－』（698p）『政治と哲学－ハイデガーとナチズム－』

論争史の一決算－(上下二巻)』(1133p)です。目下は最後著を踏まえて現代フランス政治哲学と「文明の倫理学」について研究を続けております。

地球科学系 安成哲三

まだ「名誉教授」と呼ばれるほどの年でも身分でもありませんので、大変恐縮するとともに、光栄にも存じています。筑波大学には21年間在職して、地球の気候・気象の研究を思う存分させていただき、大変感謝しております。現在は、名古屋大学地球水循環研究センターで引き続き、研究と教育にたずさわっています。今も、筑波大時代の研究仲間と連携・協力しながら国際的な研究プロジェクトなどを進めております。

体育科学系 入江康平

東京教育大学以来弓道を中心とする武道論・史関係の教育・研究に携わってきました。現在は私なりに長年にわたり蓄積してきました資料をまとめております。いづれ公表し、評価を受けたいと思っておりますが、どうせやるならあれもこれもとエスカレートし、何年かかるかわからない状態です。しかし後に続く若手研究者のために何かを残しておきたいと思ひもあり、また健康を保つために適度のストレスと完成した時の喜びを夢みるのもよいのではとも思ひ、目下作業中というところです。

芸術学系 河口龍夫

私は筑波大学芸術学系に20年間在職し、「総合造形としての現代美術の制作と研究」に取り組んできました。この機会に退職後の芸術活動と教育活動について報告します。退職した2003年に、美術評論家中原佑介著による評論集「関係と無関係－河口龍夫論－」が現代企画室から出版されました。この本はアーティストと評論家とのコラボレーションによるブック・イン・ブックです。つまり私のドローイングの紙面の中央を刳り貫いて単行本サイズの評論集がはめ込まれている独特なデザインによる本です。9月に韓国の釜山市美術館企画による「日本現代美術 河口龍夫」展の展示の為釜山に行きました。その時、留学生が親身になって手伝ってくれたことに感謝しました。11月に中国の杭州にある中国美術学院の主催による「アジア現代美術展」に参加依頼があり、初めて中国に出かけました。アジアのコンテンポラリーアートとは何かを検証するような展覧会でした。2004年の夏は、国際芸術センター青森に滞在し、「時の杖」と「時の庭」を野外に現地制作しました。最近国際芸術センター青森での2005年春の個展の作品制作をしています。教育活動では、京都造形芸術大学客員教授と倉敷芸術科学大学教授として現代美術の制作と研究について教育としていますが、教育を芸術活動の一貫として位置づけ創造的教育の可能性について模索しています。

臨床医学系 能勢忠男

平成15年3月に退官し、附属病院長時代の夜の電話にもドキッとする生活は半年ほどで脱しました。その後は若い脳外科医達との症例検討会、関連病院での外来診療や時には手術の仲間入りをさせてもらうなど、臨床の中でゆったりとした生活を送っておりました。ところが平成17年1月1日付で、茨城県総合健診協会のお手伝いをする事になりました。これまで経験のなかった疾病の予防や早期発見の領域をあらためて勉強してみようと思ひます。

副学長 菊池 修

量子科学は、電子計算機の進歩に伴って、私が大学院生の頃より急速に発展し、現在では化学全般に対する基礎学問となりました。その当時より私は、東京教育大学と筑波大学において、分子軌道計算プログラムの開発、溶媒効果を含む分子軌道理論の展開、分子キラリティの研究などにより、量子化学の発展に貢献してまいりました。定年退官後は、これまでの専門から少し離れた事柄に焦点を当てて勉強しております。

副学長 冨江伸治

研究分野は建築計画学といい、建築のスペースと人の行動の関係について考究し、実際の計画・設計に活かす方法やデータを示すという分野です。主に、住宅（地）、医療施設、図書館などを研究対象としてきました。

これからは、それらの蓄積を活かし、NPOなどで、まちや建築づくりのお手伝いができれば、と考えています。

また、趣味の生活の充実と、我が人生を振り返りながら人生論について考えたいとも思っています。

哲学・思想学系 水野建雄

私は昭和56年4月に筑波大学哲学・思想学系に赴任し、23年間在職しました。専門領域は倫理学ですが、人間の歴史性という視点を根底において、主として二つの方向で勉強してきました。一つは、ヘーゲル哲学を中心としたドイツ観念論の勉強で、他の一つはデイルタイ、ガダマーを中心とする解釈学の研究です。今後はこの勉強をベースにして現代倫理の課題に取り組んでいくつもりでおります。よろしくご指導をお願い致します。

歴史・人類学系 池田 裕

私は、古代オリエント史と旧約聖書学に深い関心を抱き研究に携わってきました。これからさらにそれを発展させていきたいと思っております。また、アナトリア（現トルコ）にある古代遺跡の研究に長年関わり、発掘には多くの筑波大生が参加し、そこから何人もの研究者が巣立っていききましたが、今後こうした面でも、若い人々と協力しながら努力をしていきたいと願っております。

教育学系 門脇厚司

昨年3月に定年退職し、この度名誉教授の会に入会させていただきました。今後とも何卒よろしくお願い致します。4月1日付けで、近隣の東京家政学院筑波女子大学の学長に就任しました。目下、2005年4月に改組改称し男女共学の「筑波学院大学」となる新大学の立ち上げで苦勞を強いられています。縁あつての学長就任と心得、何とか筑波大学に並べるいい大学にしたいと考えています。先輩会員たちの支援と協力を切にお願い致します。

心身障害学系 池田由紀江

平成16年4月から健康科学大学 福祉心理学科教授として仕事をしております。健康科学大学は2年前にできた新しい4年制の私立大学で、まだ2年生までしかいないという小さな大学です。山梨県河口湖のほとりの森の中にあり、毎日のように富士山の美しい姿が臨めます。筑波大学名誉教授の佐藤泰正先生のご紹介で今の大学に着任しましたが、仕事を続けることができて、本当に良かったと思っています。というのは、平成14年の春、夫が急逝しました後、やや抑うつ状態にありました。まだ、完全に立ち直っているとは言えませんが、現在は気持ちを新たに若い学生の教育に携わるといふ充実した生活をありがたく思っています。筑波大学とは比べるべくもありませんが、筑波大学での経験を活かして健康科学大学の発展に尽くしたいと思っています。

社会科学系 田島 裕

大学での講義（英米法、比較、国際法）を続けると同時に、我が国の綱紀審査委員長（裁判長）として、法曹の非行事件の審理に当たっています。4月に退官後これまでに約100件の事件を受理し、昨日までにその半分の判決をくだしました。司法へのアクセス（国民による裁判の利用）の促進をはかり、民主化のために全力をあげています。『アメリカ憲法』のほか、数冊の学術著書を出版しました（大きな反響がありました）。退官後の方がいそがしいのですが、教え子たちと山小屋作りをたのしんだり、とにかく充実した日々を送っています。

社会工学系 池田三郎

社会工学系で21年間社会システム分野における環境問題を主題とした研究と教育に従事してきました。退官後、生活の場を信州の田舎に移しましたが、いましばらくは、長年、事務局を務めた日本リスク研究学会の発展に関連する仕事や、独立行政法人防災科学技術研究所の客員研究員として「災害に強い社会システム」プロジェクト、科学技術振興機構の「技術リスク問題」の研究等で、いささかなりとも貢献できればと思っています。

社会工学系 門田安弘

筑波大学では経営学分野で21年間、会計学や生産管理を研究してきました。退官後は新宿区にある目白大学で新しい学部の運営に携わっていますが、学部を良くしていくことはなかなか挑戦的な仕事です。研究面では、主として日本発のマネジメント・システムに関する英文の book series を永久に海外で出版していく活動を始めました。国際的な人脈を再構築し、学界と産業界の有識者の協力を得て、コツコツと長期的に推進していきます。

生物科学系 山根國男

大学では枯草菌（納豆菌の近縁種で、洗剤用酵素やアミラーゼを工業的に生産するために利用される細菌）の染色体ゲノム解析やタンパク質の細胞内局在・分泌機構を分子生物学的に解析してきました。主に基礎的研究でしたが、退職後は独立行政法人 食品総合研究所において石油の分解や合成に関係する微生物を研究し、応用を目的とした研究を行いたいと考えています。

生物科学系 齋藤建彦

生物科学系に在職中は網膜神経組織の再生の研究をしていました。学生の講義、研究指導、そして種々の会議に追われる毎日から解放され、ホッとする間もなくアメリカに渡り、現在、SUNY Upstate Medical University の視覚研究センターで Research Professor として研究三昧の生活を送っています。といっても老化しつつある脳の中で、残っている神経細胞をフル回転させて頑張っているというのが正直なところです。このような生活は退官数年前から考えて実現させたことでもあり、健康で気力のある限り、続けるつもりです。大学はニューヨーク州北部にあり冬は寒さが厳しいことから、冬期は日本で過ごします。

地球科学系 梶原良道

自然界における元素及び同位体の時空的分布とその地球科学的支配則の究明を通じて、鉱物資源成因論（メタロジェネシス）を生物圏進化と連動した地球環境変動論のフレームワークに融合せしめる認識体系の確立を模索してきた（重金属鉱床有機源環境規制説（黒鉱・石油同源説）の提唱及び海洋無酸素事象出現史の同位体地球化学的還元検証など）。今後は関連国際誌の編集活動を通じて地球惑星科学の新たな展開に微力を尽くしたい。

私は企業での研究所生活25年後に筑波大学へ赴任しました。筑波大学には僅か10年と半年の在職でしたが、新表面計測技術としての分子線散乱研究の立ち上げと、永年の懸案であった原子レベルでの仕事関数計測を実現したことに大変満足しております。また、数多くの優秀な学生に囲まれ、また彼らを卒業させたことは無上の喜びでした。退官後は、(独)産業技術総合研究所にて客員研究員として、電界放射電子源や仕事関数に関する基礎研究に携わっています。講義も会議もなく、特に義務もありませんので、一人終日充実した時を過ごしております。

私の専門分野を尋ねられると「電子物性の理論研究」と答えてきたが、それは物性物理学の一分野であって、しかも私が対象としたのは低次元性の強い物質であり、最近こそ目の見るようになったがマイナーな分野であった。いくつかの小さな発見もあって学問的には自己満足できるものであったが、定年退職した今振り返ってみると、ここまで物理の教育・研究を続けてきたことが何か不思議である。そもそも大学入学時には医学を目指していたのに生物や化学の多くのことを覚えるのが苦痛で、基本原理だけ覚えればよいと錯覚して物理の方に入り込んだのだから。

今は非常勤講師を週2回勤めているが、その他の時間は自由気ままである。時間があれば大いに読書をしているが、いつでも読めるとなるとむしろ億劫になるもので実に怠惰な過ごし方をしている。それでも若い人に理科の楽しさや大切さを何とか伝えられないかと思案だけはしている現在である。

怪我や故障のエリートアスリートを前にして戸惑うことがある。きれいに、元通りに、早く治すことは当然なのだが、特にアスリート本人やスポーツ現場ではいつ完全復帰できるかが最大の関心事である。これへの的確な回答となると途端に歯切れが悪くなり、曖昧となる。怪我の修復に関するエビデンスが圧倒的に少ないことと社会人に対する医学的なものさしではアスリートには役に立たないことを改めて痛感している昨今である。

機械力学・制御分野に関する企業での豊富な開発研究を土台とするが、この分野へのAI適用によるインテリジェントダイナミクスの研究が主な専門分野といえる。具体的には多次元パターンの学習を得意とするニューラルネットワークの応用研究やファジィ推論・学習の応用による知的機械システムの創造的開発研究を行ってきたが、発展的には研究課題は絶えることは無く、見通しのきく範囲で発言してゆきたいと思う。

編集後記

原康夫会長の熱意と、名誉教授の会員及び大学会館・事務職員の方々のおかげで、会報10号をお届けすることができました。今回は、特に、筑波大学学長岩崎洋一先生から、大学の経営戦略について、また、藤田紀盛先生からは、高齢者の健康維持について、長谷川鎮雄先生からは高血圧について、貴重なご原稿をいただきました。また新入会員の先生方から、現在のご活躍の様子をご報告いただきました。有難うございました。お礼申し上げます。

次号の発行に向けて、会員の方々、新会員の方々、会報についてのご意見やご活躍の様子をお知らせ下さい。(連絡先：大学会館 名誉教授室 電話029-853-2382)

会報担当：佐藤泰正・島岡 丘